

ナチュラルダイ®

蝶理株式会社


昔から草木染めの自然染料を使った衣服は注目されてきたが、汗や光に弱く、洗濯すると色が流れてしまい、手仕事の一品制作でしか作れず、工業化ができないという課題があった。そこで、蝶理(株)は、子会社で商品企画を行う「蝶理MODA(株)」、染色加工のベンチャー企業「(株)シオンテック」と協業して、草木染めを改良し、^{けんろう}抜群の堅牢度を実現した新自然染色法「ナチュラルダイ」を生み出した。

この新しい染色技術は、草木はもちろん、野菜、果物、残さ物（コーヒーの搾りかす等）から取り出した天然色素を、独自に開発した天然由来ののり（バインダー）で繊維に強固に固着させるものである。現在約3,000種類

もの色を表現でき、さらに、天然素材だけではなく、化学繊維にも染色できるのが大きな特長である。また、廃液中の残留色素が極めて少ないため、水質汚染、土壌汚染防止にも貢献する、自然に優しい技術である。一方ナチュラルダイは、使用する天然色素の産地を限定することにより、トレーサビリティを明確にすることができる、唯一の染色技術でもある。

2009年には、ナチュラルダイの派生版「ベジタブルナチュラルダイ」シリーズを展開した。このシリーズはトマトやタマネギ、ニンジンやレタスなどさまざまな野菜（一部規格外野菜）に色素を限定したナチュラルダイである。

また2010年にはベジタブルナチュラルダイの第2弾シリーズとして、カット野菜メーカーの最大手デリカフーズ(株)との協業による、カット野菜残さを色素に使用したベジタブルナチュラルダイをスタートさせた。カット野菜を作る工程で食べられずに廃棄してしまう部分（不可食部分）から、色素を抽出している。

現在、婦人アパレルブランドや子供服、企業ユニフォームを中心に市場拡大を進めている。今後の新しい試みとしては、企業ユニフォームアパレルに向けて、ナチュラルダイにカーボンオフセットを付帯させる商品の開発も始まっている。この商品を購入した際に生産時に排出されたCO₂をオフセットできる仕組みになっている。また、環境意識の高い、欧米市場への展開を視野に入れた、テストマーケティングにも着手している。 



カット野菜残さを利用した
ベジタブルナチュラルダイ



ベジタブルナチュラルダイの子供服